

# 地域の自然との共生を学ぶ。

45  
Feeling like a small trip

## 屯田防風林

屯田地区と新琴似地区の境界に伸びる、約2.2kmの通称「屯田防風林」。強風から農作物を守ろうと、屯田兵がコの字型に自然林を残して作ったとされる防風林の一部は、昨今、地域住民が自然との共生を考える場になっている。地域を愛する想いと未来へつなげる精神的な活動から、誰もが暮らしの中で自然環境について考えることの大切さに気づかされる。

屯田防風林 **G-3/45** 屯田1条1丁目～5条12丁目

### 変わりゆく自然への危機感を原動力に

地域住民の原風景として親しまれてきた防風林。しかし、人間との関わりの中で希少なオオバユリの大群生が見られなくなるなど、その風景は大きく変わってきた。こうした事態に危機感を覚え、2001年に貴重な自然環境を後世に残そうと隣接する複数の町内会と商工会で「ポプラ通りを守る会」が立ち上げられた。倒木の危険がある樹木や危険箇所などの定期的な調査、ゴミ拾いや不法投棄の通報などの活動を続ける。2018年からはオオハンゴンソウ(特定外来生物)などの駆除作業も行い、在来野草花であるオオバユリやオオバナノエンレイソウ、スミレ類、エゾエンゴサクなどの保護に力を尽くしている。木村美太郎会長は「防風林を歩いている人の安全を守る。そして200万都市札幌にとっかけてかえのない緑を後世に残す。これが私たちの役割」と宣言する。地域が一丸となる活動が、市の財産である屯田防風林を未来へつないでいく。

オオハンゴンソウ(特定外来生物)の駆除作業



ポプラ通りを守る会 木村 美太郎会長

### オオバナノエンレイソウとは

シュロソウ科。白い花に気品を感じることから森の貴婦人と言われる。札幌市内では数か所で見られない貴重な花。開花まで約10年もかかる。



### オオバユリとは

防風林のシンボル。ユリ科、別名エゾウバユリ。8年ほどかけて、一斉に開花し、約10日で一生を終える。以前は、麻生入口から屯田西野線まで約2.2kmにわたって、大群生を形成。現在は2,000～3,000本と減少傾向。カラスによる被害で毎年200本ほどが倒れている。



コの字(東から西に向かって撮影。手前は創成川通りのポプラ並木)

屯田防風林

### 新琴似北小学校の子どもたちと防風林

1973年から、子どもたちが手作りの巣箱を防風林に掛ける取り組みを「ポプラ通りを守る会」と共に続けてきたが、近年野鳥が寄り付かなくなったことから、2017年に休止。現在は、3年生が総合的な学習として、防風林内にいる昆虫や植物を調査するフィールドワークを行う。「身近にある屯田防風林は自然の美しさに触れることができる素敵な場所。子どもたちには防風林を通じて、心豊かに育ってほしいですね」と渡邊教頭は話した。

巣箱掛け



渡邊 雅子教頭

### 防風林の樹々

屯田兵による大正3年(1914)の大正天皇即位記念事業ポプラ植樹が起源。その後、1935年に植えられたポプラ、ドイツトウヒ、ヤチダモが主要樹種。

児童が調査した「防風林のこと」

これまで児童が調べてきた植物や防風林の歴史などを保管した「防風林の部屋」

47  
Feeling like a small trip

## 沼を観察する。

46  
Feeling like a small trip

鮮やかに水辺を彩るハスなどの水生植物、さまざまな種類のトンボに多くの野鳥。豊かな生態系が守られている沼では、一期一会の自然のドラマを観ることができる。

トンネウス沼 **G-3/86**

あいの里4条8丁目 あいの里公園内



### 大きな公園で遊ぶ。

北区は面積約4ha前後からそれ以上という大型公園が多い。多くの人々が暮らしていれば、当然遊びの場所も多く設けられるということだ。夏には水遊び、冬にはソリやスキーもできる大きな公園。大人も童心に戻れるような、行きつけの遊び場を持つておくのも悪くない。

### 広大な芝生広場とパークゴルフ場も



拓北公園

拓北5条5丁目

### 大きなコンビネーション遊具が◎



屯田公園

屯田8条6丁目

### 冬にはスキー山で雪遊びが楽しめる



新琴似グリーン公園

新琴似4条14丁目

### 樹木に囲まれ、遊具やスポーツも



太平公園

太平12条3丁目